

# 森と人シンポジウム

〔シンポジスト〕

東京大学名誉教授 きんたろう倶楽部名誉会長

自然体験やまびこの郷「夢創塾」塾長

富山市長

富山大学学長 きんたろう倶楽部会長

〔司会〕

養老 孟司氏

長崎 喜一氏

森 雅志氏

西頭 徳三氏

廣川 奈美子氏

司会者

呉羽の森について森市長にお話を聞いてみたいと思います。里山が近く感じられた時代に、少年時代をお過ごしになったと思うのですが、いかがでしょうか。

森市長

私は今も呉羽丘陵の梨畑の中に住んでいて、子供の頃は近所の仲間と秘密基地を作ったり、ワラビやグミを採って食べたり、まさに遊び場でした。

呉羽山は神通川の方から行くと、急にそそり立っています、その結果、都心部に近い所にあの素晴らしい呉羽山丘陵が残ったと思っています。特に城山隈やファミリーパークの辺りは街から歩いて行ける距離です、日曜日はたくさんの方が山を歩いていらつしやるわけです。遊歩道が整備されていますし、ほとんどゴミも落ちていません。手頃な里山が近い所にあるのは大変意味があることだと思っていますので、これからも大切にしていこうと大事だと思っています。

司会者

ありがとうございます。長崎さんは、そういったことを改めて体験できる施設をおつくりになつていらつしやるようなのですが、そのきっかけは。

長崎氏

柵田の雑木林を15年ほど前に開いて、そこにある杉、土、水を使って子供の遊び場になる手作りの小屋を造っています。5年前から森に道をつけて、人も、風も、情報も入るだろうと、こんなことをやりました。道づくりで切った雑木は炭にし

たちと一緒に体験させてもらつていくということです。

司会者

ありがとうございます。養老先生、そもそも森で遊ぶ、森を楽しむというのはどういう脳の働きになるのでしょうか。

## 森に暮らすことが根っこにある

養老氏

もともと、アフリカが乾いていった時に、森から降りざるを得なかった猿が人間になったと言われています。ですから森に懐かしさを持つているんだけど、生活はサバンナの乾燥した所で暮らすという癖が一方についているわけです。

「ドングリと文明」という本を興味深く読んだのですが、ドングリ



森の分布を見ますと、非常に綺麗に温帯を覆っています。日本ではそういう土地に依存していた文化を縄文文化と言っていますが、同様の文化は世界の温帯にあったのではないかと。カシを切つても根を掘らなければまた生えてくるので、燃料が維持できます。ドングリの実は美味しくないですが非常に腹持ちが良いです。実は、ラオスで酒のつまみに野生の栗を食べました。面倒だし、たいして美味しくないのに気がついたらどんぶりいっぱい食べているのです。僕は、ああいう食物が元来食べていた物じゃないかと思いました。東京でイベリコ豚なんて流行っていますね。ドングリしか食べさせていない豚ですが、おそらく、その歴史は非常に古いです。

司会者

里山がなくなると私たちの命が断たれるようなことになるのでしょうか。

養老氏

そこまでは分かりませんが、暮らし難いでしょうね。海外に行つて気付くのは、日本人が山によく入るということです。外国で山道を辿ると、必ず誰かの家に行き着いちゃうのです。要するに、道とは人の家に行くものなのです。日本では普通に道を歩いていると山の中に入つて行き、やがて峠を越えて向こうに出る、そういう道は世界にあまりありません。

司会者

森の文化がDNAを通して引き継がれている部分もあるということですが、富山平野の水、また森と水の係わりというものについて西頭会長お聞かせいただけますか。

司会者

では、例えば富山市であったら、地元の特性をどのように生かしていくのでしょうか。

## 高度差4,000m 命の循環

西頭氏

富山ならではの研究ということ

森市長

呉羽丘陵にはいろんな施設がある